

受講番号 19100 学校名 清水中学校 氏名 文野 美和

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年2組 生徒数 31 名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3(開隆堂)

クラスの様子・特徴

本年度より担当となった学年。該当クラスは全体的におとなしく受け身で反応も少ない。英語に苦手意識があり「わからん」とあきらめている生徒がいる。男女は仲が良く、ペア活動はよくできる。

問題の確定

ノートをとり、単語や文を書いて覚える等の地道な作業をいやがる生徒や、真面目だが受け身の授業になっている生徒がいる。

予備調査

A 授業の観察

ほとんどの生徒は真面目に取り組んでいる。ペア活動や「いちごテスト(単語テスト)」には意欲的だが、音読や口頭練習の声が小さい。あきらめや自信のなさから反応も弱く感じる。

B 生徒による授業評価

アンケートによると生徒たちがつづきたいと思っている力は、読解力、英文を書く力、リスニング力、単語を書く力が上位を占めた。英語が「嫌い」な生徒が半数いるが、Writing Practiceやいちごテストは好きな活動や役に立つ活動だと思っている。

C 学力データ

昨年度末に行ったCRTの結果によると『英文を書く時の決まり』の正答率が極端に低い。範囲の決まった中間や期末テストでも単語や文を書く問題に苦手意識のある生徒や意欲に欠ける生徒がいる。

リサーチ・クエスト

英語に苦手意識のある生徒が多いクラスで、どのようにすれば、既習の単語や文型を使って身近なことを表現できるようになるか

仮説・実践・検証

仮説1

語彙力を増やしたり、基本文を読み書きして基礎・基本の学習を徹底させれば、英語に対する苦手意識が薄れ、意欲・関心が高まるのではないかと

実践1

中学英語必修100語をプリントし、いつでも復習・練習が出来るように渡した。また、家庭学習が定着していない生徒もいるので、書く時間を授業中確保している。新出単語をフラッシュカードで何度も繰り返し発音させ、パートごとに単語テスト(ディクテーション)を行った。その際簡単なフォニックスで音とスペルの関係をつかませるようにした。

検証1

新出単語を繰り返し発音させることで、大きな声が出始めた。英語が苦手な男子生徒がテスト前に教科書やワークを見ながら単語を覚えている姿がよく見られた。中学英語必修100語を2学期にテストした。1度に100問なので難しいとは思っていたが、自主的に再チャレンジする生徒もいた。100語を覚えたことで自信がついたり、「実力テストの長文が読めてわかった」と言う声も聞かれた。

仮説2

教科書を繰り返し読んだり、スラッシュリーディングで語順の定着が図れるのではないかと

実践2

自信を持って単語や文が読めれば声が出しやすくなる。と考え、B4 1枚にA(ルビ付き)B(英文のみ)C(一部日本語)D(日本語訳)E(英語の語順の日本語訳)のリーディングシートを各パートごとに作成。授業ではAかBを使用して音読練習をした。スラッシュリーディング、リピーティング、シャドーイング、日本語を聞いて英文を読む等繰り返し読むのにあきらめない工夫をした。

検証2

A、Bのどちらを読んでいるか他の生徒にはわからないので声を出しやすく音読の声がだんだん大きくなってきた。紙面上Aにはスラッシュを入れていないので日本語を聞いて英語を読むときはどこで切っているかわからず声小さくなる。自分でスラッシュを入れたり、Cで読めるように家で練習したりと、それぞれが工夫して読んでいる。ペアでチェックさせたときはほとんどの生徒がBで読もうとしていた。

仮説3

ペアで会話し既習の表現を繰り返し使う機会を設けることで表現力が定着するのではないかと

実践3

毎時間既習の表現を用い、ペアでQ&Aを行っている。最初は例文通りでもかまわず、だんだん自己表現に近づける。慣れればつなぎ言葉も使えるように指導している。

検証3

毎時間ペアで会話練習を行っているが、50分の授業の中で生徒たちが特に生き生き活動できている時間ではないだろうか。ALTとの1対1のインタビューテストにも積極的に取り組む姿が見られた。例文をまるおぼえして答えるなど、本当の自己表現まではまだつなげていない生徒もいるが、ある程度パターンは覚えているので今後さらに自分自身のことを表現できるようにしていきたい。

研究の成果

単語を覚えることで、テストの点があがったり英文を読んだり書いたりできるようになったと感じる生徒が増え、授業への取り組みもよくなった。語順についても、特に2学期はSV00やSVOC、後置修飾、関係代名詞など決まった順番で並べなければならない基本文型が多く、生徒たちには語順に気を付けばある程度の英文が作れるのでわかりやすかったようだ。定期テストの平均点もあがり、「英語が好き」「どちらかと言えば好き」な生徒が13名 → 21名に増えたのが何よりもうれしい成果である。

今後の授業改善の課題

「英語が好き」「楽しい」という生徒が増えた反面、やはり「大嫌い！」という生徒も4名いる。嫌い → 勉強したくない → わからん → 嫌いの悪循環に陥っている。個々の生徒にあった声かけや指導を考えていきたい。また、ペア活動やグループ学習をもっと多く取り入れなかつ同士の関わりの中で自己表現力やコミュニケーション能力につなげていけるよう授業を改善していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0880-82-1243